

総合科学技術会議  
第59回評価専門調査会議事概要（案）

日時：平成18年10月5日（木）14：00～14：58

場所：中央合同庁舎4号館 第4特別会議室（4階）

出席者：柘植会長、阿部議員、薬師寺議員、本庶議員、黒田議員、原山議員、伊澤委員、垣添委員、笠見委員、久保田委員、小林委員、手柴委員、土居委員、中西委員、西尾委員、平澤委員、古川委員、宮崎委員、虫明委員

欠席者：庄山議員、加藤委員、川合委員、小館委員、平野委員、本田委員

事務局：川口参事官他

- 議事：1．開会  
2．評価専門調査会（第58回）議事概要について  
3．最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用のフォローアップ結果について（議題1）  
4．閉会

（配布資料）

資料1 評価専門調査会（第58回）議事概要（案）

資料2 「最先端・高性能汎用コンピュータの開発利用」のフォローアップ結果（案）

資料3 「最先端・高性能汎用コンピュータの開発利用」指摘事項への対応状況等

（机上資料）

「最先端・高性能汎用コンピュータの開発利用」について

（平成17年11月28日）

国の研究開発評価に関する大綱的指針（平成17年3月29日）

科学技術基本計画（平成18年3月28日）

分野別推進戦略（平成18年3月28日）

議事概要：

【柘植会長】定刻ですので、ただいまから第59回の評価専門調査会を開かせていただきます。

本日の議題は、議事次第に示されておりますように「最先端・高性能汎用コンピュータの開発利用のフォローアップの結果」の審議であります。初めに配布資料の確認を事務局からお願いします。

<事務局から、配付資料について説明が行われた。>

評価専門調査会（第58回）議事録について

平成18年9月13日開催の評価専門調査会（第58回）の議事録について、確認が行われた。

【柘植会長】前回の58回の評価専門調査会の議事録は、資料1のとおりです。各委員のご発言の部分につきましては書面で事前にお送りしましてご確認いただいていると思います。ご承認いただきたいと思います。

ありがとうございます。承認させていただきます。

議題1：最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用のフォローアップ結果について

上記フォローアップ結果について、原案のとおり承認された。

【柘植会長】議題1に入りたいと思います。平成17年度に事前評価を行った「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用」について、8月以降、フォローアップ検討会を設置して、指摘事項への対応状況に対するヒアリング・討議を行ってまいりました。本日はフォローアップ検討会の審議結果を踏まえて、評価専門調査会として取りまとめを行うことといたします。

それでは、フォローアップ検討会の座長の労をとっていただきました土居委員から検討会において取りまとめられました「フォローアップ結果（案）」についてご報告をお願いしたいと思います。

<土居委員から、資料2に基づき、説明が行われた。>

【柘植会長】座長はじめフォローアップ検討会の皆様方には大変ご苦勞いただきまとめていただいたわけです。約20分ほど時間をとりまして各委員からご質問、ご意見をいただきたいと思います。いかがなものでしょうか。

会長といたしまして、今の土居座長からの報告にありましたように昨年の事前評価での指摘事項を実施側の文部科学省は反映した結果、いわゆるフロント

ローディング、最初の段階できちっとそこを詰めるということの作業ということとを誠実に行っていただいている、大きなマイルストーンとしては来年の春あるいは来年の8月ということは1年前に立てたマイルストーンは動かさなくて実施している。たまたま今の通過地点で絞り込めていないところが多々あったために本日のような報告の趣旨になったと私も理解をしております。そのような認識の上でいかがなものでしょうか。

会長としての認識ですけれども、審議の途中で本日の机上資料、資料2 - 10に「米国のスーパーコンピュータの開発状況について」が、これは公開の情報で調査されたものが我々検討会でも報告を受けまして、これをきちっとやって当該の我々の本日の議題であります開発と利用をしっかりとやっていくと目標の時点では世界最高レベルのものが達成し得るなということが確認されたことと私は理解しております。

【久保田委員】あまりよくわかっていないのですけれども、あるところで聞きますと例えば日本のコンピュータ技術は地球シミュレータができたころは世界一だった。ですけれども、最近ではかなり落ち込んでいて、今座長が言われたようにアメリカのスーパーコンピュータに比べるとかなり落ちているのではないかとということも聞いております。今のここで考えている最先端・高性能汎用スーパーコンピュータというのができますと、その辺の位置付けはどの辺になるのかというのがまだよくわからない。

もっと簡単に言いますと、また世界一になれるのかどうかということと、もう一つは、高性能といってもいろいろあると思います。おそらく最速にするのか、あるいはメモリをものすごく大きくするのか、あるいは小さくてもいいけれども設計に使えるとか、使い勝手のいいものにするということも性能が高いと言われるのではないかと思うのですが。

そういう意味で昨年までは京速というのをずいぶん言っておられたのではないかと思います。つまり最速ですか。速いということが重点になっていたような気がするのですが、その辺はまだここでも考えておられるのか。つまり京速ということが最大の目的なのか、あるいはそれ以外の例えば汎用にするとか、もっと使い勝手のいいものにするとか、どのようなことになっているのでまだ作業が遅れているのかどうか。いろいろ言いましたけれども、その辺の質問をさせていただきたいと思います。

【柘植会長】土居座長、資料3で当該部分が書かれていると思うのですが、座長からお答えいただけますでしょうか。

【土居委員】お答えさせていただきます。まず、最初の久保田先生がおっしゃられた地球シミュレータですが、地球シミュレータは理論値が40テラでして、できたときは連立方程式で勝負をさせるのですが、これはCPUの速度だけで

周りのことに関しましてシステムとしての競争というわけではないのですが、これはトップをとっておりましたが、今現在はたしか10位だろうかと思いません。だんだん落ちてきております。

あれは入っているところのシステムを測るということですので、我が国といたしましては持っているのはそれ以上のものを持っている機関はあります。IBMのブルージーンとか、あるいは東京工業大学のTSUBAMEといったようなものは東京工業大学が中心として設計され、NECに発注してでき上がったものがありますが、そのTSUBAMEは4位ぐらいにいるかと思えます。

しかし、ご存じのように9月にIBMがまた発表いたしましたのが2年後に1.6ペタというのが出てきておりますが、1ペタぐらいで走らすようなつもりでいるようです。ピーク性能が理論値が、あれは最大瞬間風速と私どもは言うのですが、1.6ペタですが、これは何とソニーのゲームマシンに使われるセルというものでして、ソニー、東芝、IBMで開発したソニーのプレステーション3に使われているCPを並列につないだものです。

したがって、次第にそういうような形で世の中上のほうに向かっておりますところに対して、我が国もこの使い勝手のよい、要するに今のような最大瞬間風速だけで使い勝手が悪いというものをつくりましたところで、これは何のためにつくっているかということがありますので、そこで文部科学省が今進められているのは使い勝手がよく、応用問題を解いているときの性能ができるだけ高くなるというようなことで進められているというようなこととこちらのほうは把握しております。

そのようなことでよろしいでしょうか。

【久保田委員】そうするとくどいようですけれども、瞬間最大風速だけを狙うものではないと理解したのですが、それでよろしいですか。

【土居委員】はい。そのように理解してください。

【柘植会長】資料3の1ページに書いてある目標は、1年前に立てた目標は変えてないということですね。

【宮崎委員】前は欠席しましたので、あまりよくわからないのですが、資料3の17ページについて質問があります。このオールジャパンの産学連携体制を構築する点ですとか、それから3つの拠点、グリッドミドルウェア、ナノ統合シミュレーション、生命体統合シミュレーションの各拠点の調整、取りまとめ、それについて右側のところにいろいろコメントが書いてあります。現在のマネジメント体制では、数多くの検討部会・委員会等で構成されているが、それらの間の連携関係が十分に説明されていないとか、グランドチャレンジ・アプリケーションの研究成果の責任者はだれなのかとか、プロジェクトリーダーと開発実施本部長の責任と権限が明確になっていないとか、そういうコメント

に対する回答というか、説明をお願いします。

【土居委員】これはなかなか難しい質問なのですが、私がお答えするような質問ではないような気がします、要は文部科学省の説明を受けた結果、こういうことでわからなかった、こういう状況ですので、そのわからなかったことに対して今答えを求められたような気がするのです。今現在の段階では、ここに書いてあるような状況です。こういうこと以外言えないのです。我々フォローアップ検討会からしますと。

したがってプロジェクト体制というのが、そのカラーの資料がありますが、文部科学省が現段階で実際に進めている、あるいは外部評価委員といますようなものが考えているのがこういう体制であります。拠点として分子研と理研の和光研究所を使い、そこでグランドチャレンジのアプリケーションを7本に絞っているようですが、そういうようなものでアーキテクチャを決定する方向に進めており、具体的なそのグランドチャレンジはこの2つの研究所がそれぞれ中心となって進めていくということで、上のほうのピンクのスーパーコンピューティング技術産業応用協議会というようなところで浮世離れしているような応用問題でなく、アプリケーションではなく、きちんと産業で役立つといただきますか、そういうところの方々とすり合わせをやって、現実に役に立つようなアプリケーションで、しかもブレークスルーができるようなものを進める、こういうような形ですが、これの一体感が読み取れないぞ、こういうような感じですよ。

ですから、それは今から文部科学省がしっかりこの点を踏まえて検討し、来年の春に再度、そのフォローアップをするという約束をしておりますので、そこでこの結果が出てくるというようなご理解をいただければと思います。

【柘植会長】補足をさせていただきますと、私もこの検討会に参加いたしましたし、土居座長のおっしゃったことです。付け加えて言いますと本日のいわゆる報告書（案）にありましたように計算機自身のアーキテクチャの今絞り込みの最中ということで、ここで言われているグランドチャレンジなアプリケーション、いわゆるユーザー側の体制のご指摘でありまして、ユーザー側のほうも今こういう形で体制としては整えられつつあるものの、やはりアーキテクチャ全体の工程から比べると、並行しながらも時間的には遅れているわけで、こういう指摘事項が当然責任府省のほうには伝わるわけですがけれども、実際にはこういう指摘事項を認識しながら先ほど言いましたように来年に向けて進めていくことで実害がないなというのが、私が検討会のほうに出て認識した内容であります。

【土居委員】検討会のメンバーの共通の、今、柘植会長がおっしゃられたとおりの認識だろうと思っております。

【柘植会長】よろしいでしょうか。

【宮崎委員】はい。

【笠見委員】私も検討会委員ですので、基本的にはこれでいいという具合に思います。資料2の2ページの下ですが、もう一度ちゃんと評価を実施するよということが結論だろうと思うわけです。この時期については、この資料の7ページに、前回、事前評価をやったときに、7ページのいちばん最後に今後2つのチェックポイントがあって、1つは来年の3月に半導体の論理構成も含めて、そこが決まったところで1回やります。もう1つは概念設計も含めて来年の8月をめどにやります。と、こういう具合にチェックポイントを置いているわけですが、今回の2ページ目の最後はその間の適当な時期にという具合にとるのでしょうか。

【土居委員】いえ、そういうことではなくて、7ページに3月、8月とありますが、このいずれかあるいは今後の進め方によって、場合によっては同時にやってもいい場合が起こり得るのではないかと考えております。が、いずれにせよこの2回の約束をいたしました、前回のことで約束をいたしましたことのとおりに進めるということです。よろしいでしょうか。

【笠見委員】いいです。しかし、なるべく早くやったほうがいいかなと思ってしますので、向こうの準備もあると思いますけれども、よろしくお願いします。

もう1つ、先ほどから質問があったように、イノベーションにつなげていくにはグランドチャレンジ・アプリケーション、バイオとナノという2つの大きな分野でこの計算機を使ったイノベーションができていかないと、ブレークスルーが出てこないとだめですが、そこまでを含めて、実はこのお金というのは多分コンピュータのソフトが動くというところまでは入っているのでしょうけれども、その後の研究開発でバイオ、ナノ、で革新的なブレークスルーをやるよというところまでは入っていないわけですが、けれども、それがうまくつながっていかないとイノベーションにつながらないわけで、そこをどうつないでいくのかというのが大きな課題です。このプロジェクトのリーダーにそこを期待するのか、あるいはもうちょっと大きな広がりの中で総合科学技術会議がそういう連携をきちんとやりながら成果につなげていくのか。あるいは文部科学省がトータルとして責任を持ってそこをやってくれるように持っていくのか。今後、次回のフォローアップまでにその辺のスタンスをきちんと決めてやっていく必要があるのではないかと考えています。

【柘植会長】評価担当の会長、一議員として今の笠見委員のご発言についてですが、まさにおっしゃった評価のスコープを超えていると思いますが、言うならば第3期の科学技術基本計画でねらいました国民・社会、成果の還元、これに向けてどうしても必要な国家基幹技術であると、このコンピュータはそう位

置付けられたわけでありませう。

したがいまして、私の理解は、今の笠見委員のご指摘は第3期の基本計画の、大きく分けると政策目的は8つありますが、それぞれの分野で推進専門調査会の下にプロジェクトチームというのがつくられています。ライフサイエンスあるいは私が持っています情報通信、ものづくりとか、それぞれの中でこれをいかに活用していくかということ、そういう形で大きな出口までの基本計画としてはなされているわけですが、私は各プロジェクトチームにそれは託されている課題だと理解をしております。

その託された課題でも私の理解は今回のナノ統合シミュレーションとか、生命体統合シミュレーション、こういう中核を担っています分子研とか理研の和光、こういうところは多分実行の段階でもセンター・オブ・エクセレンスの役目をしていってけると理解をしております。

【本席議員】今のご議論と全く同じようなことですが、総予算1,154億円というのと、目的のところを拝見しますと開発・整備及び利用技術の開発・普及となっております。これを文字どおり拝見すると実際のナノとライフに関する応用技術、この開発を含むというふうに読めるのですが、今の笠見委員のご質問と全く同じですが、そうするとこの1,154億円は機械をつくる。もちろんソフトウェアを含めて、ということだけ、そういう理解ですか。ここはやはり非常に大きな点で、文部科学省としてどういうお考えなのか。

【土居委員】本席議員の今のご質問といいますか、ご疑問ですが、資料3の1ページ目のところに今のような目的がありますが、1枚めくっていきますと内容というのがあります。事前評価時の説明資料においては内容の項目が立てられていなかったが、参考資料では以下のような内容が示されたということで、スーパーコンピュータを最大限活用するためのソフトウェア等の開発・普及ということで、そこに目指すグランドチャレンジあるいは学術情報ネットワークというようなこととともに、世界最先端・最高性能の汎用計算機システムの開発・整備、そして3番目に次のページになりますが研究水準向上と世界をリードする創造的人材の育成の総合的な推進、こういう3つを内容として含んでいるというように理解しております。

【本席議員】わかりました。そうすると、これはそういう応用に向けての基礎研究の予算も含んでいる、ということですか。

【土居委員】はい、ここに示されている最低限のところは含まれているというように理解しています。

【本席議員】わかりました。それで、私はこのライフ関係の資料2-4-2をざっと眺めさせていただいたのですが、まだこれからと思いますが、これは極めて抽象的なことばかりですので、もしこの予算でこの機関ということでお

考えなら、もう少しこのところは緻密な計画を立てていただかないと、これは大変なことではないかと思えます。ターゲットが本当にグランドチャレンジなので、このところもやはり詰めが必要ではないかと思いました。

【柘植会長】今の点、ご指摘のところは第3期の科学技術基本計画の狙っている、あるいは国民にコミットメントしたことそのものが今本席議員からご指摘だと思えます。私の理解は先ほど申し上げたことと同じでありまして、この資料3の2ページ、3ページにわたって書いてあるものはいわゆるこの分野で基盤ができるという、すなわち計算機のシステム、ハードウェアも含めたシステムと、それからそれをイノベーションを起こすための道具としてのソフトウェアと人材、ここまでが固まるということでありますので、やはりこれにはスコープ、プラスのもので基本的には第3期基本計画の分野別推進戦略のそれぞれの該当部分でしっかり出口まで持っていくということが、これとは別に課せられていると私は認識しております。

【笠見委員】私もそう理解しております。

【久保田委員】先ほどの資料3でフォローアップ検討委員会のコメントがいろいろありましたね。例えば3ペタフロップスの計算ができるとどういふイノベーションがあるのかというようなことが、こういうことに対する回答というか、どう考えるか。それはこれからやることなのですか。それを受けて次の再々フォローアップに反映されると考えるのですか。

【土居委員】それで結構です。

【久保田委員】わかりました。

【柘植会長】いかがなものでしょうか。このフォローアップ結果の案をご承認いただけますでしょうか。

【西尾委員】異議があるというのではなくて、確認です。事前評価を行って、1年後にフォローアップを行うということになった。それはアーキテクチャの設計がその時点ではまだ詰められていないから、その部分をもう1回フォローアップしますよとなったのはわかります。しかし、運営体制の部分についてはアーキテクチャの部分と性格が違うのではないかという気がします。

まだプロジェクトリーダーが決まっていないとか、グループ間の連携がどうもよく見えないといった部分は、直ちにその改善を求めて結果報告を求めるべきものであって、ちょっと性格が違うのではないかと思えます。フォローアップというのは、問題が残れば次々と頻繁に行うものとして理解していくのかどうか。その辺がちょっと疑問になったのですが。

【柘植会長】今ご指摘のところは資料3の17ページの部分をご指摘の部分だと思えます。例えばグランドチャレンジのアプリケーションの責任者はだれなのかとか、これ全体の話はアーキテクチャの話、スーパーコンピュータ本体の



話と、それからそれを使って動かすいわゆるアプリケーション側のそれを包含したもののマネジメントが、今ちょうどつくられつつあるという状況でありまして、決してこのアーキテクチャの計算機側のつくる部隊についてはそういうような指摘はなかったと私は理解しております。

ソフトウェアの話については、ソフトウェア側がするとアーキテクチャがもうちょっとはっきりしないということで、若干グレーの部分があるのでこういう確認ができなかったという。ですから、私としてはしかし責任府省である文部科学省は大きなマイルストーンとしては1年前に立てた来年の春というものについてはそれを動かさずにきちっとやるということをやコミットメントしてくれていますので、今回のこの指摘は当然文部科学省としては真摯に受け止めてくれているはずですので、そう頻繁にフォローアップしなくてもこの評価専門調査会のミッションは果たせるものと私は理解しておりますが、よろしいでしょうか。

【西尾委員】もう1点は資料2のフォローアップ結果(案)の7ページ、いちばん最後ですが、「その内容如何によっては、抜本的な見直しを検討する」。「検討する」という言葉で結ばれていますね。これは「検討する」が妥当なのか、例えば「を求める」とか「要求する」という表現のほうがふさわしいのではないかという感じもするのですが、いかがでしょうか。

【柘植会長】ご案内のとおりこの文章は1年前に昨年の指摘事項のものなのです。この行の意味しているところは全く変わっていったもので、そのまま載せているという状態です。

【久保田委員】1つ希望があります。先ほど来のご議論で、これは開発だけではなくて利用ということも入っていると理解いたしました。そういう意味でグランドチャレンジとしてのアプリケーションというのは非常に有望だと思うのですが、そういう意味でいろいろなところで使えるような、使って役に立つようなシステムにしていただけるように思っております。これは希望です。

【柘植会長】資料2の4.の昨年の資料の中でも計算機だけつくるのではなくて、5ページから6ページのあたりで今のご指摘のソフトウェアの話についてもきちっとやるように、使われて本当に言うならばイノベーションに結びつくソフトウェア、これが指摘されていますので、今のご要望は昨年の中に盛り込まれていると私は理解しているのですが、それは当然ここに規定されたようにフォローアップしますよという形で担保されていると思うのですが、よろしいでしょうか。

【久保田委員】私は実は航空宇宙というような分野におりまして、昔はここにあります数値風洞とか大きな計算機があったのです。それがだんだんなくなってきましたので、こういう計算機ができるとさっきのライフ、ナノ、もちろん

これはグランドチャレンジでしょうけれども、それ以外の分野でももっと最先端の計算ができるのではないかという気がいたしますものですから、そういう可能性があるようなシステムになっていけばいいな、こういう希望でありました。

【柘植会長】土居座長、何かコメントはありますか。

【土居委員】何か特別に用途限定の専用というようなことではないわけですので、久保田先生が今希望として述べられた点は文部科学省としますと承知して研究開発を進めているものだと思っております。

ソフトウェアも先ほど会長のほうからおっしゃられましたとおりで、ソフトウェアの例えば一般的な計算機の互換性を高めるなどというような、ものすごく広いところまでここで注文を出してしまっておりますが、そういうようなこととか、本体そのものも、これは7ページの真ん中ぐらいになっていると思いますが、すべてが京速計算機を必要とするわけではないことから、大規模、中規模計算機を重層的に展開するというようなことまで考えるということで注文をつけておりますので、承知してやっていらっしゃいますから大丈夫だと思っております。

【柘植会長】今の補足ですが、久保田委員のご関心は私はこのプロジェクトの中に含まれていると思っておりますのは、先ほどナノとライフサイエンスはページでいうと資料3の横書きの6ページのところで、いわゆるグランドチャレンジのアプリケーション、これは新たに開発していくというのですが、その上にターゲット・アプリケーションというのが6ページの1行目に出てきている。これは今実際に宇宙航空も含めていろいろな分野で広範囲な大規模な解析がされているわけでありまして、それも今の計算機環境ではいわゆる精緻度において限界がある。今動いているアプリケーション、これをいかにうまく使っていけるマシンにもなるかというので、ターゲット・アプリケーションというものがかなりの数選ばれて、すでにそういうものの適合性についての検討が行われているのもこのプログラムの中に入っておりますので、久保田委員のご関心の話はそこの中で大部分、宇宙も含めて入っていると理解しております。座長、そういうふうに理解していてよろしいかと思っております。

【土居委員】資料3の5ページをご覧になっていただきますと、ポンチ絵がありますが、グランドチャレンジ・アプリケーションというのは左手のピンクのところにあります。その下側のところにターゲット・アプリというのが5分野21本抽出されてありまして、そのものが基本的にいろいろな分野のものが、5分野というのは工学まで含んでいるわけですが、そうしてそういうようなものに適したアーキテクチャを開発していくということで計画をずっと進めていらして、先ほど申し上げました21本を今7本ぐらいにまで絞って、その性能

の評価をしているというようなところを現段階まででされております。

会長がおっしゃられたとおりです。

【久保田委員】ありがとうございます。

【本席議員】先ほど座長と会長のご意見が微妙にずれているような気がしたのもう一遍確認したいのですが、この資料2 - 1の6ページから8ページにかけてはかなり明確にアプリケーションに向けてのソフトウェア開発を行うとして、その研究開発拠点をきちっと設けて、さらに進捗状況としては提案公募方式によりここに決めた。さらにオールジャパン体制で行うというふうに具体的に書いてありますので、私の理解ではやはり具体的なターゲットに向けたソフトウェアの開発、具体的な問題設定をやって、それを解いてみるというところまでこのプロジェクトは含んでいる、決して外側の機械だけあってどうぞという、そういうプロジェクトではないと理解させていただいていいのではないかと思いますのですが、この文章を見る限り、そこは重要なところではないかと思えますので。

【柘植会長】その点については座長の認識と私の認識と変わっておりません。ただ、今まさに本席議員がおっしゃったことは言うならば第3期の基本計画でいう社会・国民、成果の還元というところまでをコミットしているわけではなくて、その還元に使える道具である。今までなかったものが可能になる道具としてこういうソフトウェアがきちっと動き始めた、そこまではきちっとやるということ。そういうことで私は土居座長とは同じ認識をしているのですが、土居委員、よろしいでしょうか。

【土居委員】資料3の2ページの内容が示してあるとおりでして、会長がおっしゃっている基本のところといたしますのがこの目指すグランドチャレンジで、やってみるというところまでは入っているということで、それが17ページの体制をご覧になっていただきますと、開発体制の中にナノは分子研でやるぞ。生命のほうは和光研究所でやるぞというようなことで、もう1つのはグリッドミドルや国立情報学研究所とやりますということで、ここまでは入っているわけです。

【本席議員】わかりました。

【古川委員】1つだけお伺いしたいのですが、資料2の6ページの真ん中の開発投資の効率化の上のところですが、このところに運営コストのことが出ていますが、「経費見積もりを厳格に行うとともに、コスト意識を高め何々」と書いてありますが、この原案ですとフォローアップの結果として経費の見積もりが非常にずさんであったとか、コスト意識がなかったというふうにも誤解されるように思われるのですが。

片一方、資料3のほうの14ページを見ますと、自己判定に至った結果等々

を参考にしますと、必ずしも経費見積もりがいい加減であったというわけでもないように思われるのです。あまりフォローアップの結果でここまで厳しく書いてしまっていいものかどうか、この辺のご意見を土居先生からお伺いしたいと思います。

【土居委員】資料2の今古川先生がご指摘された個所は平成17年度の事前評価のときの指摘事項です。それを受けてこちらの資料3ができております。よろしいでしょうか。

【柘植会長】貴重なご意見、討議がされたと思います。いかがでしょう。このフォローアップの結果の案を当評価専門調査会として認めるという形にしたいと思いますが、異議はございませんでしょうか。

【柘植会長】ありがとうございます。このいただきましたフォローアップ結果（案）を取りまとめた結果といたしたいと思います。土居座長をはじめ参加いただきました専門委員の皆様方、これまでのヒアリング、討議に本当に精力的にご協力をいただきましてありがとうございます。本日ご承認いただきました評価専門調査会によるこの調査検討の結果のフォローアップ結果は関係省に送付いたしまして、当該結果に対応いただくとともに公表することといたします。

本日予定していました議事はこれで終了させていただきます。ご案内のとおり本日の配布資料もすべて公表するという事にいたしますので、ご承知おきください。

最後に次の日程につきまして事務局から説明ください。

【川口参事官】次回ですが、11月13日月曜日ということにさせていただきます。15時から17時ということで、この館内の会議室を予定しております。

議題ですが、大規模研究開発の事前評価につきまして、その原案についてのご審議をいただくということを予定しております。

次回の議事の関係ですけれども、先ほど会長からご案内がございましたように前回9月の評価専門調査会において平成19年度の新規予算ということで始める予定の大規模な研究開発、「ターゲットタンパク研究プログラム」と「太陽エネルギーシステムフィールドテスト事業」、この二つの大規模研究開発につきまして事前評価を行うことをご了解いただくとともに、外部から招聘する専門家を含めて評価検討会を設置することをお認めいただいたわけです。

先日、10月3日にはターゲットタンパク研究プログラム評価検討会（第1回）を開催いたしました。本日、この後、太陽エネルギーシステムフィールドテスト事業評価検討会（第1回）を開催するという事にしております。

それぞれにつきましては今月中に第2回の検討会を開催するという予定でし

て、評価原案の作成に向けて鋭意調査検討を行っていただくということにして  
おります。

以上です。

【柘植会長】それでは、本日はこれをもって閉会といたします。ありがとうございました。

了